

道教護符に使用される用語の整理：『道法會元』を対象として

早川美彩*, 松本浩一**, 宇陀則彦**

Classifying terms used in Taoist charms appearing in “Dao-fa Hui-yuan”

Misa HAYAKAWA, Koichi MATSUMOTO, Norihiko UDA

抄録

本研究科では、道教資料の1つである『道法會元』に含まれる符を対象とし、画像とテキストデータによるデータベースの作成を行ってきた。また、そのデータを使用した分析システムとして、符を構成する要素であるパーツに対する分析システムなど、様々な分析方法の提案が行われてきている。しかし、パーツ分析を行うためには、パーツとそれに付与されている説明文の関係について、整理を行うことが必要であると考えられる。

これまで作成されてきた『道法會元』データベースでは、データの一部のみが扱われていたため、『道法會元』研究として、作成された分析システムを活用することはできない状況であった。そこで本研究では『道法會元』の巻56以降に含まれる全ての符とパーツ、およびそれに与えられた説明文についてデータを作成した上で、新たにパーツの分類を行った。そしてその分類に基づき新たな方式でパーツコードを与え分類表を作成した。さらに、多く出現するパーツについて、その意味との関連を考慮に入れた上で、分布の特徴と傾向とを分析し、それらと呪術の宗派との関連について考察した。

Abstract

The database of the image and related text of Taoist charms(Fu), which appear in the Taoist ritual book “Dao-fa hui-yuan”, has been built to help researchers in this college. And many analysis tool has been built up, for example, analysis system of “Parts”, which is component of charms. However, if researchers want to use these tools, they are not useful unless the relation of the forms and the meanings of “Parts”, which is given to each “Parts” in analysis style charms, are arranged definitely.

The former database didn't contain all “Fu” and “Parts” of “Dao-fa Hui-yuan”. Therefore, analysis tools couldn't use for research of “Dao-fa hui-yuan”. So, in this study, we created “Fu” and “Parts” data which appear in “Dao-fa Hui-yuan” after volume 56, and created a classified list of “Parts”. After that, we made analysis about the tendency of distributions of “Parts”, taking the relations of “Parts” and their meanings into consideration, and considered the relations of the tendency of distributions to Taoist sects.

* 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科前期課程2年
Master's Program
Graduate School of Library, Information and Media Studies,
University of Tsukuba

** 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科
Graduate School of Library, Information and Media Studies,
University of Tsukuba

1. はじめに

近年、図書館や博物館・美術館など、様々な機関が所蔵している貴重資料に関して、画像データを含むデータベースの作成が行われている。また、国文学資料館の「史料情報共有化システム」の開発のように、様々な機関によって作成されたデータベースを、一括して検索することを可能とするための研究等も行われてきており、作成されたデータベースの活用方法も考えられてきている[1]。資料をデータベース化することは、資料へのアクセスを容易にするとともに、データベースを使用した新たな研究への可能性を開くことも可能にすると言える。

本研究科では道教文献である『道法會元』に含まれる符を対象として、画像とテキストデータによるデータベースを作成するとともに、『道法會元』中の符や、符を構成する要素であるパーツに対する分析方法が提案され、実際にいくつかの分析システムの作成が行われてきた。

しかし従来作成されてきた『道法會元』データベースでは、『道法會元』に含まれるデータの一部のみが扱われていたため、考案された分析システムを、『道法會元』全体の研究のために活用することはできない状況であった。本研究では、まず『道法會元』の巻56以降に含まれる全ての符についてデータを作成した。これによって、考案された分析システムを『道法會元』全体の研究に活用することが可能になる。さらにパーツに関する計量的分析を行うためには、パーツについて整理を行い、パーツの形に注目した分類を行うとともに、パーツに与えられた意味の違いについても整理を進めて、そのデータを付与する必要がある。本研究では、従来一部を対象として行われてきたパーツの整理を『道法會元』全体に及ぼし、改めてパーツの分類を行った。そして分類ごとに多く出現するパーツについて、それに与えられた説明文の整理と、パーツ間の意味の関連について整理を行い、その成果をデータベースに反映させた。これによって『道法會元』全体の符・パーツに、分析システムを適用することが可能となる。そしてその整理作業に関連して、符・パーツの形およびパーツの形と意味との関連に注目して、その出現傾向に対して分析を行った。この作業は、それ自体が、符に注目した呪術の宗派の解明に道を開くとともに、パーツに注目した計量的分析の基礎を据える意義を持つと考えられる。

2. 『道法會元』とそのデータベース化

2.1 『道法會元』とは

本研究で対象資料とした『道法會元』について説明する。

『道法會元』とは、中国道教の経典である『正統道藏』に収録されている道教の儀礼書である。『道法會元』は『正統道藏』の中でも全268巻の分量を擁する大部の経典であり、雷法を中心とした諸派の道教呪術に関する集大成となっている。この雷法とは雷の力を呪力の源泉とし、雷部に属する神將や神兵を使役して、驅邪や治病または祈雨などの目的を達成する呪術である[2]。

雷法の文献には呪術の理論を説いた文献と呪術を伝える文献がある。呪術を伝える個々の文献の構成としては、まずその呪術の由来を記した序文が載せられ、次にその呪術の守護神となっている神名が「主法」として挙げられ、使役する神將名が「將班」として列挙される。そして目的に沿った瞑想方法・符・呪文等が記述される形式となっているものが多い。『道法會元』にも、この理論を説いた文献と呪術を伝える文献の両方が存在している[6]。『道法會元』のデータベース化で対象とするのは後者の呪術を伝える文献である。

図2-1に『道法會元』のページ構成の例を挙げる。この



図 2-1 『道法會元』のページ構成

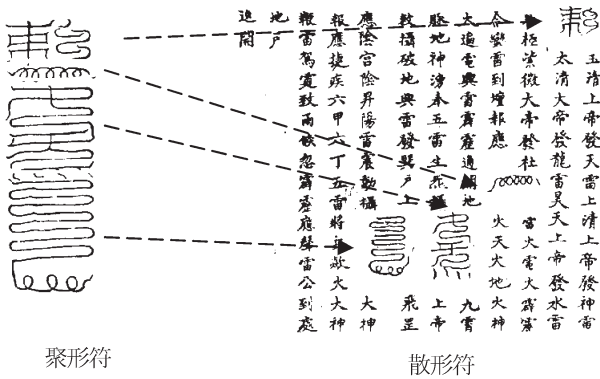


図 2-2 「破地脉符」聚形符と散形符

図にあるように、そこには符などの図と呪文などの文章が混在しているという特徴がある。ページは、『道法會元』の巻の所在情報を示した「場所」、符や儀式の形式等を描いた「図」、図の効力や図を使用する際の呪文、神将名などが記述される「関連テキスト」から構成されている。

この『道法會元』中には様々な種類の図が存在しているが、『道法會元』データベースでは、「符」に関係したデータを中心としている。『道法會元』中に出現する符には、符を1つのまとまった形で記述した聚形符と、符を構成要素ごとに分け、それぞれに説明文が付与されている散形符の2つの形式があり、聚形符のみが記述されている符、聚形符と散形符の両方が記述されている符、散形符のみが記述されている符の3種類が存在している。同じ符の聚形符と散形符を図2-2に示している。

次に、散形符について説明を行う。散形符は図2-2に示すように、符を構成要素ごとに分けた図柄(ここではパーツと呼ぶ)の部分と、そのパーツによって示される内容を記述した「説明文」の部分から構成される。このパーツは同じあるいは類似した形が複数の散形符に出現することがある。その場合、散形符ごとに出現するパーツに説明文が付与されるが、同じ形であっても異なる意味の説明文が付与されることがある。

2.2 『道法會元』のデータベース化

『道法會元』のデータベース化については、宇陀・松本両研究室の共同で行われ、林宏美によって報告がなされている[3]。1923~26年にかけて北京の白雲觀に所蔵されていた「道蔵」を上海の涵芬樓が影印刊行し、さらにそれを台湾の新文豊出版会社が再び影印刊行したが、データベースの作成においては、この版本を底本とし、ページごとおよび図単位での画像ファイルの作成を行っている。八十田らは、符を構成する個々のパーツについて、

パーツIDを付与し、また類似している形状のパーツには同一のパーツコードを付与した。これによってパーツ単位での検索が可能となった[4]。

またこのデータベースを対象とした分析機能については、為沢らによる符名の文字列分析、八十田らによる散形符のパーツの共起関係分析、馮によるパーツ関連度の可視化等の機能が作成されてきている[5][6]。

以上に述べたように、先行研究において、『道法會元』を対象として様々な分析方法の検討が行われてきているが、計量的な分析機能の作成が中心であり、意味の面からの研究は今後の課題となっている。

3. パーツデータの入力と分類

3.1 パーツコード付与に関する問題

これまで『道法會元』データベースのパーツ分析は、八十田の作成した巻165第13から巻263第16に掲載されている150枚の散形符、1023のパーツのデータを対象として行われてきた。しかし、このような様々な分析機能を実際に活用するためには、『道法會元』に含まれる符全体を入力し、それらを対象として分析を進める必要がある。そこで、今回巻1-55は散形符の掲載がないため対象外とし、巻56以降に含まれる聚形符・散形符について、画像データの作成および、散形符のパーツに付与されている説明文の入力作業を行った。この作業により、2143の聚形符、500の散形符、4458のパーツデータが作成された。

次にこれらのパーツデータを対象に、従来考案されてきた分析方法を適用するには、パーツ分類を行う必要がある。たとえば八十田のパーツ分析では、2.2で述べた八十田の作成したパーツコードが用いられてきた。しかし、この八十田が作成したパーツコードは、その時点で作成されていた、巻165から巻263の散形符に含まれるパーツを対象として分類を行い、出現回数の多い種類のパーツから、順に「nuw001」、「nuw002」というようにパーツコードを与えたものであり、『道法會元』全体のパーツデータを対象として考案されたものではなかった。新たに付け加えられたパーツデータに対して、八十田の方法に基づいてパーツコードを付与する際には、次のような問題点が生じると考えられる。

まず、近い形のパーツであっても、離れたパーツコード(分類)を付与されているものがあり、このことは新たなパーツに対してパーツコードを付与する際に、問題となってくる。八十田の分類において、近い形であっても別のパーツコードが付与されている例を表3-1に示す。

表 3-1 「鬼」字を使用したパーツの例

パーツ画像	符名	パーツ ID	パーツコード
	天蓬刀圖符	170060107	nuw279
	斬瘟符	219130101	nuw327
	火牽飛雷霹靂符	222190105	nuw332

表3-1には同じ「鬼」という漢字を使用したパーツを示している。しかし、それに対して八十田の分類では「nuw279」「nuw327」「nuw332」の3つの離れたパーツコードが付与されており、同じ「鬼」という漢字を使用したパーツが、他に出現した場合にどのパーツコードを付与するかで混乱が生じる。また、八十田や馮により行われた共起関係の分析では、同じ漢字を使用したパーツに、別のパーツコードが付与されていると、類似した形のパーツが分散してしまうという不都合が生じる。

また漢字を使用したパーツ以外でも、類似した形に様々なパーツコードが付与されているものがあり、新たなパーツに対して分類を行う際に混乱が起きると考えられるものがある。さらに類似した形のパーツを検索する際や、あるいは計量的分析を進める際にも問題が生じると考えられる。

八十田のパーツコードを利用するには、以上のような問題があると考えられるため、新たにパーツデータの分類を行い、改めてパーツコードを付与することとした。

3.2 パーツコード付与に使用する分類表の作成

まずパーツ分類に当たっての分類基準について述べる。

図3-1にパーツ分類を行った際の手順を示している。パーツは1つの要素から構成されているパーツと、複数の要素の組み合わせにより構成されているパーツに分けることが出来る。そこで、第1段階としてパーツを構成する要素の数により分類を行う。次にパーツを構成している要素の種類を画像と文字とに分けることが出来ると考え、構成要素の種類により分類を行う。パーツコードはまず構成要素の数では1つの要素に「s」、複数に「p」を付与、構成要素の種類では画像に「f」を、文字に「c」を、二つの組み合わせに「m」を付与し、その下の分類については6桁の数字で表すものとした。

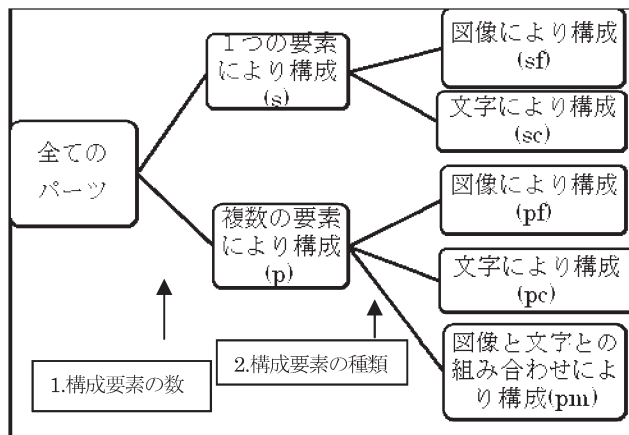


図 3-1 分類手順

表 3-2 パーツ分類表 (部分)

1つの画像により構成	分類番号1	形説明	分類番号2	分類番号3	画像
	01	円3	03	01	
01	円3	03	02		
01	円3	03	03		

作成した分類表の一部分を、例として表3-2に示す。表には1つの要素・図表により構成されるパーツ(sf)の分類表の一部を示している。例えば一行目の図像と同じパーツの場合sf010301というパーツコードが振られる。コードの1番目の01は抽象的な図形によって構成される図形であることを、2番目の03は円が3つあることを表し、3番目の01はシーケンス番号である。

3.2.1 構成要素の数による分類

図3-1に示した分類手順に従って説明していく。まず、散形符を構成するパーツは、1つの要素で構成されているものと、複数の要素で構成されているものとに分けることが出来る。図3-2に1つの要素で構成されているパーツと、複数の要素で構成されているパーツの例を挙げる。右の複数の要素で構成されているパーツは、大きく3つの要素から構成されていると考えることが出来る。まず、上の3つの円と直線から構成される要素は、左に示した1つの要素で構成されるパーツと同じ要素であると言える。また、その要素に付属する形で「上台中 下」の字が記載されており、その下に「翼星田」の字が大きく記載され、これも一つの要素となっている。このように複数の要素で構成されているパーツと、1つの

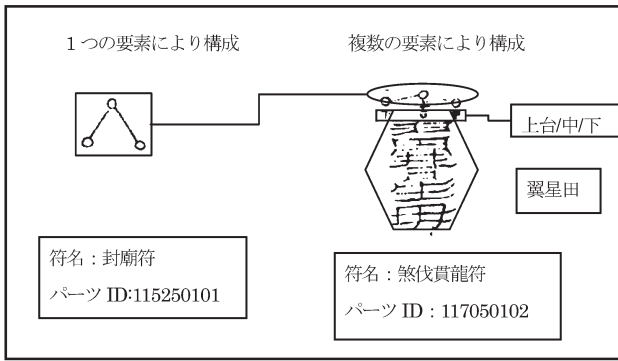


図 3-2 構成要素の数による分類

要素で構成されているパーツとは、初期の段階で区別を行う必要があると考え、第 1 段階として分類を行った。

3.2.2 構成要素の種類による分類

パーツの構成要素の数による分類の後、パーツを構成している要素の種類によって分類を行った。パーツを構成している要素は、「敕」などの漢字を基にした要素とその他の図像の要素に分けることができる。そこで、1つの要素により構成されているパーツと、複数の要素により構成されているパーツを構成要素の種類により、それぞれ分類を行った。それぞれの分類について説明を行う。

① 1つの要素で文字から構成されるパーツ

この分類については漢字辞典を参考とし、漢字の部首画数により分類を行うものとした。また同じ漢字であっても異体字や崩しの異なる漢字などがあるが、これらについては同じパーツコードとし、崩しなどの違いは無視することとした。これは意味の面でも異体字や崩しの差異による意味の差がほとんどないと判断したためである。表3-3に1つの要素で文字から構成されるパーツの例を示している。パーツコードの付与についてsc030106を例に説明する。この分類の中でのパーツコードの付与では、漢字の部首の画数、その画数の中での部首番号、その部首の中での漢字の番号をそれぞれ2桁の数字で表

表 3-3 1つの要素・文字から構成されるパーツ

パーツ画像	符名	パーツ ID	パーツコード
𠄎	敕火符	061150102	sc030106
召	勅召靈雷符	125070102	sc030106
𠄎	九天捉鬼飛單符	195140106	sc080711

すものとしている。そのため、sc030106では3画の部首の内1番目の部首の6番目の漢字となる。この番号の付与では、同じ漢字部首のものが近いパーツコードとなり、またパーツコードの追加が容易と考えられる。

② 1つの要素で図像から構成されるパーツ

この分類には、円形や線などにより構成される単純な図像、頭や体などの具象的な図像の他、漢字が分解されて複数のパーツとして記述されている図像もこの分類とした。

この分類では図像をその種類により、円形や線などにより構成される単純な図像、頭や体などの具象的な図像、漢字が分解されて複数のパーツとして記述されている図像の3つに大きく分類し、それぞれについて細分化し分類を行った。

まず、抽象的な図像についてはDoreのパーツの意味づけを参考として分類を行った[7]。すなわち抽象的な図像のうち特徴的な部分に注目して分類を行った。図3-3に抽象的な図像パーツの例を挙げている。抽象的なパーツは大きく4つに分けられる。図3-3に示した3つのパーツ群とそれに当てはまらないその他のパーツ群である。左に挙げたパーツ群では円の数の変化により、中央に挙げたパーツ群では曲線の曲がる回数により、右に挙げたパーツ群では線のねじりの回数によりパーツコードを分けるものとなっている。

次に具象的なパーツには、頭や腕などの体の部分や剣などの持ち物等が分類される。この分類は体の部位により分類を行った。図3-4にこの分類に属するパーツの例を挙げる。この分類は、頭に関するパーツ、腕に関するパーツ、胴体に関するパーツ、足に関するパーツ、剣等の持ち物に関するパーツに分けることができる。また図3-4にsf020101のパーツコードを付与した2つのパーツを挙げているが、このようにこの分類に属するパーツについては、形の類似が余りみられないパーツについても、同じ部位を表しているパーツについては同じ分類とした。

これはパーツの共起分析などの際に、パーツ分類が細分化しすぎると問題が生じると考えられるためである。

次に漢字が分解されて複数のパーツとして記載されている図像の分類について説明する。図3-5に例を示している。図3-5の陽木郎符は、聚形符において「勅」の字を示している部分が、散形符では左に挙げている2つのパーツに分解されている。これらの漢字が分解されて記載されているパーツについては、パーツの画数による分類を行うと共に、パーツの補足情報としてそのパーツが何の

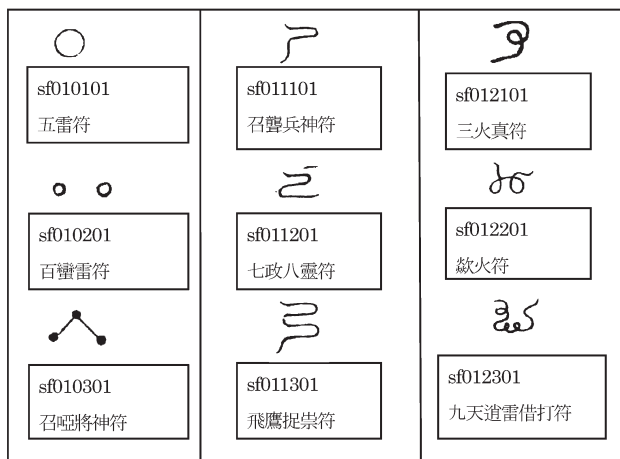


図 3-3 1つの要素・図像から構成されるパーツ (抽象)



図 3-4 1つの要素・図像から構成されるパーツ (具象)

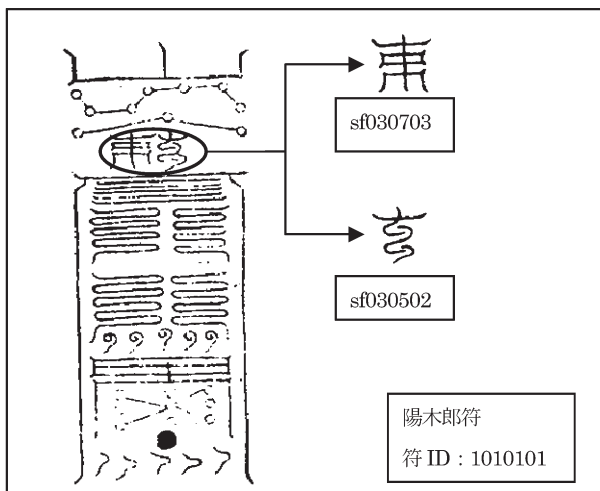


図 3-5 : 1つの要素・図像から構成されるパーツ(部品)

漢字の部分であるのかを記述している。また、漢字が分解されているパーツについては、第 4 章で述べる関連するパーツコードの分析において、元の漢字との関連付けを行っている。

③複数の要素で文字から構成されるパーツ

複数の要素で文字から構成されているパーツには、「鄧嬖」や「張珏」など神將等の名称の文字列、「勅令」「収鬼」などの行動等を指し示す文字列、「火火火」などの同じ文字を繰り返している文字列等がある。この分類については、使用している文字の数、頭文字の部首を基準として分類を行った。

④複数の要素で図像から構成されるパーツ

この分類に属するパーツは少なく、また共通するパーツもほぼない。そのため、この分類では構成要素の数を基準として分類を行った。

⑤複数の要素で文字と図像から構成されるパーツ

この分類では、1つの文字と1つの図像が組み合わさったパーツの他、「雷令」のような文字列に図像が組み合わさったパーツ等が存在している。この分類ではパーツの構成要素の数と文字の数とを組み合わせることによって分類を行った。

3.3 パーツ分類表の意義

以上で述べてきた分類表の作成及び分類作業により、作成された総てのパーツデータに対して分類を行い、総てのパーツデータについて、その構成要素ごとに分析を行うことが可能となった。また、全てのパーツデータの分類が行われたことで、従来の一部のみのデータを使用した分析でなく、『道法會元』に含まれる散形符全体に対して分析を進めることが可能となる。その他、今後研究が進められる予定の符の構造分析に、このデータを利用していくことが可能であると考えられる。

今回の分類では、八十田の分類を利用する際の問題点として挙げた、同じ漢字を使用したパーツの分類、類似したパーツの分類の問題を解決していると考えられる。この分類では、同じ漢字を使用したパーツについては同じパーツコードを付与したため、漢字を使用しているパーツについては、漢字ごとの意味の比較などが容易になる。また、類似したパーツに対して、近いパーツコードを付与するようにしたため、形の類似からの検索が容易になると考えられる。またパーツの分析を行う際にも、類似したパーツに近いパーツコードが付与されていることで、類似したパーツの比較などが容易になると考えられる。

4. 構成要素ごとの分析

4.1 『道法會元』の呪術の宗派について

以下の分析においては、『道法會元』に収められた呪術

を伝えた宗派の違いについて言及することがあるので、ここで呪術の宗派についての研究についてふれておきたい。初めにこの問題について言及したのは松本であり、彼は呪術を伝えた祖師の名や登場する神將名に注目して、清微派、火師派、新神霄派という区分を行ったが、かなり大まかな分類といえる[8]。また二階堂は登場する神將に注目して、収められた呪術すべてに渡って出現する神將を詳しく検討し、清微系、神霄系、神霄系諸派、天心系、酆都・地祇系などの区分を行った[9]。また李遠国は、呪術の序文などを根拠として、成立時代別に、個々の呪術の由来や伝授などを詳しく論じている。両者とも呪術相互の関係については詳細に論じているが、呪術の系統については論じていない[10]。

このように呪術の宗派やその系統についての議論は、今後の課題として残されている部分が多い。

4.2 パーツ全体に対する分析

本研究で作成した『道法會元』の符とパーツのデータについて、全体の出現傾向を述べる。

図4-1に10巻毎に区切った聚形符と散形符の出現回数のグラフを示している。このグラフから分かるように聚形符と散形符の出現する巻には偏りがみられることが分かる。第1章で述べたように、呪術の理論を説いた文献と呪術を伝える文献が存在しているため、理論を説いた文献が続いている部分で、両者の符の出現回数が少なくなっていると言える。

『道法會元』では、呪術の理論を説いた文献と呪術を伝える文献が交互に出現しており、呪術の理論が続く部分の前と後とでは、符および呪術の内容にも区切りがあると考えることが出来る。

この聚形符の出現回数から、巻66-75、巻126-135、巻176-185、巻206-215、巻246-255の部分で出現回数が少なくなっていることが読み取れ、ここに何らかの区切りがあるのではないかと推測出来る。

また、図4-2に同じく10巻毎に区切った聚形符と散形符の出現割合のグラフを示している。散形符の出現数は聚形符の出現数と連動する部分が多いが、散形符の出現割合に特徴がみられる部分も存在していることが分かる。

まず、巻66-75では聚形符の出現回数も低く散形符は出現しない。次に、巻96-105、巻106-115、巻136-145、巻186-195、巻196-205では聚形符の出現数はどれも100以上と多いが散形符の出現数が少なく、巻に出現する符に占める散形符の割合は10%以下となっていることが分かる。一方、巻76-85、巻156-165、巻226-235、巻256-265、

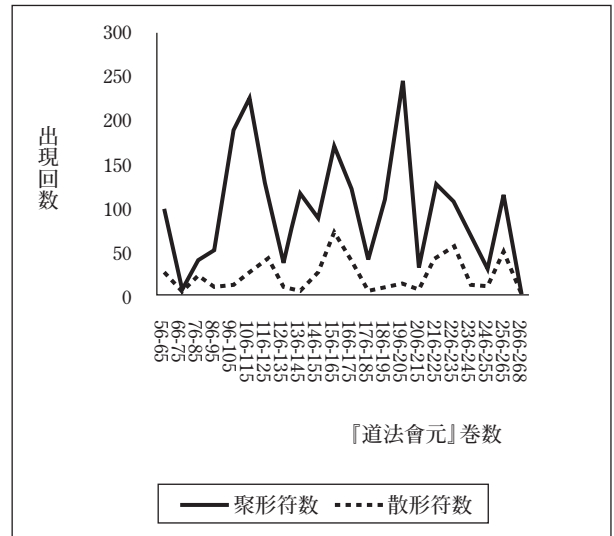


図 4-1 聚形符・散形符の出現回数

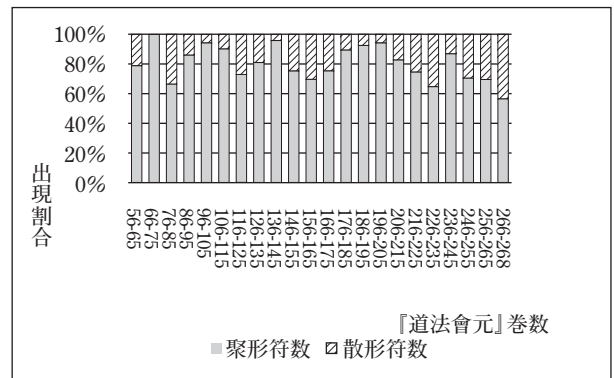


図 4-2 聚形符・散形符の出現割合

巻266-268は巻に出現する符に占める散形符の割合が30%以上となっているものである。このような出現割合も、従来は試みられてこなかった、符の特徴に基づく呪術の宗派分析を試みるための、手がかりとすることができるのではなかろうか。

次にパーツコードの分布について述べる。図4-3に10巻毎に区切ったパーツ分類ごとの出現割合のグラフを示している。まず1つの図像から構成されるパーツは全体のパーツ数の約63%を占めているが、巻126-135と巻246-255に占める割合は、それぞれ44%と40%であり、他の巻と比較して少ないことが分かる。一方、巻136-145と巻266-268では86%を占めており、特に割合が高いことが分かる。次に1つの文字から構成されるパーツは全体のパーツ数の約24%を占めているが、巻136-145に占める割合が3%と他の巻と比較して極端に少ないことが分かる。また、巻176-185と巻246-255ではそれぞれ44%と40%を占めており、他の巻と比較して特に多いことが分かる。このグラフから分かるように巻ごとにそれぞれの

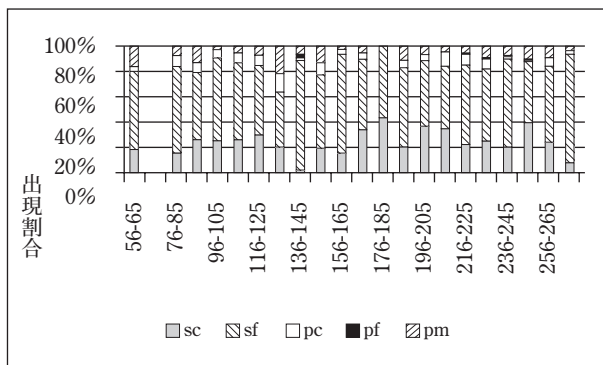


図 4-3 パーツコードの分布

パーツ区分の占める割合は異なっており、パーツ使用に呪術による違いが表れていると考えることが出来よう。

使用されているパーツの種類について、第1章で述べた松本の符の系統の分類に従って[8]、それぞれのパーツ分類に属するパーツ数の割合を出したものを表4-1に挙げる。松本の分類による清微派に属する符では、散形符が一切存在せず、今回は入力の対象としていない。それぞれの割合を見てみると、新神霄派に属する巻のパーツごとの割合では、文字を使用したパーツ(sc)に属するパーツ数の割合が、他の符の系統と比較して多いことが分かる。また図像パーツ(sf)に属するパーツ数の割合が、新神霄派の巻ではその前の巻154-197と比較して10%低いことが分かる。このことから、松本の呪術の宗派の分類に従って分析した場合、使用されるパーツの種類にもその特徴が現れていると言える。

また、1つの散形符に使用されているパーツの数は、全体の平均では9.13個となっているが、巻76-85では平均13.86個のパーツ数となっている一方で、巻186-195では平均5.3個のパーツ数となっており、1つの散形符に使用されるパーツ数についても偏りがみられると言える。またこの平均のパーツ数については、火師派の平均パーツ数が10.80であるのに対し、巻154-197では平均パーツ

表 4-1 松本の符の系統ごとのパーツ割合

呪術の宗派	清微派	火師派	新神霄派	合計	
巻	1-55	56-153	154-197	198-	
sc		24%	22%	26%	24%
sf		60%	69%	59%	62%
pc		8%	5%	7%	6%
pf		0%	0%	1%	0%
pm		9%	4%	8%	7%

数が8.06個、新神霄派の平均パーツ数が8.63個となっており、火師派とそれ以降の部分では平均パーツ数に差があると言える。このようにパーツの分布の特徴を計量的に分析することによっても、呪術の宗派に関する研究に一石を投ずることができることを示せたのではないかと考える。

4.3 頻出するパーツの分析

4.3.1 文字パーツ

1つの文字から構成されるパーツで、頻出するものについて意味の整理と分析を行う。1つの文字から構成されるパーツ数は1103件で全てのパーツの約24%に当たる。この分類では223種類のパーツコードが作成された。この内出現回数順に上位5種類のパーツを表4-2に挙げる。ここに挙げているパーツに使用されている字は出現回数順に「勅」「火」「田」「煞」「鬼」となっている。この内、上位3つのパーツについて、パーツの意味とパーツの出現する巻の分布を分析する。

表 4-2 文字パーツの出現回数

パーツ画像	パーツコード	出現回数
勅	sc021302	179
火	sc042601	96
田	sc050701	65
煞	sc042602	48
鬼	sc100801	44

①sc021302の意味と分布

文字パーツで最も出現回数が多いのがこの「勅」を使用したパーツである。この種類のパーツが全てのパーツ数に占める割合は約4%となっている。パーツの出現回数について10巻毎に区切って見ると、このパーツの出現回数は巻166-175、巻216-225、巻226-235で特に多いが出現割合としては低く、巻186-195、巻246-255で出現割合が高いことが分かる。また、巻100以前では出現回数が24回と低いが、巻200以降では出現回数が84回となっており、松本のいう新神霄派、二階堂の天心・豊都・地祇系の法術に属する部分で多く出現していると言える。

次に、このパーツが持つ意味について説明する。このパーツでは「玉清帝敕」のように神名+勅のような形をと

る説明文,「上帝有敕掃蕩九州」が「上帝の勅で九州を掃蕩する」という意味を持つように神名十行う事という形をとる説明文,「吞魔食鬼濟世安民」が「吞魔食鬼し世を濟い民を安ずる」という意味を持つように,説明文に「勅」という字が含まれず,命令の内容のみを示している説明文がある。この「勅」を発するものとしては,「上帝」「玉清」「玉皇」「三天」などがある。この「勅」を発するものとして,最も多く出現するのが21回出現する「玉皇」である。次いで多く出現するのが15回出現する「三元・三清・三天」であり,次に多いのが8回出現する「上帝」「玉清」となる。これらは出現する巻に偏りがなく,広範囲に分布しているものとなっている。一方,出現する巻が限られているものもある。「玄天上帝」は巻130と巻154にのみ出現しているものとなっている。また,「神霄真王」は巻193から巻236にのみ出現している。また「酆都大帝」は巻262から巻268にのみ出現するものとなっている。また巻200以降にのみ出現するものとして「殷郊」「高明大帝」などがある。このような「勅」を発する神で,出現する巻数が限られているものは,当該宗派に特徴的な神であると考えることが出来る。

②sc042601「火」の意味と分布

このパーツが全てのパーツに占める割合は約2%となっている。出現回数を10巻毎に区切って見ると,このパーツは巻106-125,巻166-175,巻226-235に多く出現するパーツであることが分かる。また,巻100以前にはほとんど出現せず,先に挙げた巻に偏って出現していると言える。

次にパーツの持つ意味について説明する。このパーツは,「速降雷火」の「雷火を速降す」や「焼諸鬼神」の「諸鬼神を焼く」のように「火」によって何かするというような内容の説明文と,「天火」「丙丁大神」「甲子天火帝」のような神名が説明文となっているもの,「鄧伯温火」のように神將名+火という形式の説明文の形式がある。説明文の意味として最も多いものが「雷火」で22回出現している。次に「天火」が12回出現,「地火」が5回出現となっている。その他多く出現するのが,巻124に出現する「火車」,巻121に出現する「火輪神將」である。その他,巻232以降のみに出現する神將名としては,「鄧伯温」「辛漢臣」があり,これらの神將はそれ以前の巻にもよく登場するので,理由は別に考察する必要がある。

③sc050701「田」の意味と分布

このパーツが全てのパーツに占める割合は約1%となっている。このパーツは巻156-175,巻216-225,巻256-265に多く出現していることが分かる。また,出現割合としては巻206-215が高いものとなっている。

次に,このパーツが持つ意味について説明する。このパーツでは「開天門閉地戸留人門塞鬼路穿鬼心破鬼肚」の説明文が付与されているものが最も多くなっている。またこの説明文に似た説明文として,「開天門闢地戸留人門通鬼路横金梁豎玉柱」のようなものも存在している。これは「地戸を閉じる」が「地戸を開く」に,「鬼路を塞ぐ」が「鬼路を通す」に,「穿鬼心破鬼肚」が「横金梁豎玉柱」に変わっているものである。これらは「天門・地戸・人門・鬼路」に対する操作の部分が共通しているものであると言える。また,その他の意味としては,「六訣」「開至破六訣」のような説明文が付与されているものが次に多くなっている。この「訣」が何を指すかは判然としないが,「開閉留通六訣内改云開地戸」という説明文があり,この「開閉留通」の部分は「開天門閉地戸留人門通鬼路」を指していると考えることができる。そのことからこの六訣は,「天門・地戸・人門・鬼路・鬼心・鬼肚」あるいは「天門・地戸・人門・鬼路・金梁・玉柱」に対する訣であると考えることができる。また,この「田」については,漢字を分解した図像パーツの一部としても存在しているものがある。

4.3.2 図像パーツ

画像パーツは,第3章で述べたように,円形や線などにより構成される単純な図像,頭や体などの具象的な図像の他,漢字が分解されて複数のパーツとして記述されている図像の3つに大きく分類される。分類作業の結果,単純な図像には1720件,具象的な図像には375件,漢字が分解されたパーツには731件のデータが分類された。この内出現回数順に上位5つのパーツを表4-3に挙げる。この内,単純な図像,具象的な図像,漢字が分解されたパーツの分類ごとに上位1つずつのパーツ,計3件のパーツについて分析を行っていく。

表 4-3 図像パーツの出現回数

パーツ画像	パーツコード	出現回数
	sf030101	177
	sf030102	118
	sf010101	113
	sf020402	80
	sf030104	69

①sf030101の意味と分布

このパーツは漢字の部分を示すパーツである。このパーツが全てのパーツに占める割合は約4%となっている。このパーツは巻236-245に多く分布していると言える。

次にこのパーツが持つ意味について説明する。このパーツは漢字の部分を表すものであるが、具体的には「三」「田」「鬼」「山」等の漢字、もしくは漢字の構成部分である場合があり、それぞれの漢字により意味に違いがみられると言える。まず、「三」の構成部分では順に「上元」「中元」「下元」の意味を表すもの、「都司主雷主者」「雨師大神」「風伯大神」を意味するものなどがある。「田」の構成部分のパーツでは、3.2.1で述べた「田」の意味である、「開天門閉地戸留人門塞鬼路穿鬼心破鬼肚」の「開天門」の部分を表す。「鬼」の部分のパーツでは、「開天門」や「閉地戸」など、「鬼」の意味である「開天門閉地戸留人門塞鬼路穿鬼心破鬼肚」を分解した意味や、「九天大將軍」などの神將名を意味するものがある。また、「山」の部分のパーツは、巻115では「真皇雷祖大帝」を表すものが多く、その他「玉皇上帝」を表すものなどがあり、元の漢字の意味と同じ意味を持つパーツが多いことが分かる。

②sf010101の意味と分布

単純な図像のパーツで出現回数が最も多いものはsf010101のパーツである。このパーツが全てのパーツに占める割合は約2%となっている。パーツの出現回数について10巻毎に区切って見ると、巻106-115、巻146-175、巻216-235で出現回数が増えていることが分かる。

次にこのパーツが持つ意味について説明する。このパーツでは「圓光一罩萬鬼滅亡急奉紫微大帝勅」「圓光一罩萬鬼滅亡」のように、「圓光」が鬼を滅亡させるという意味、「天圓地方」「天圓神君亥」のように「天圓」を意味するものなどがある。また図4-4に示すように1つの符にこのパーツが複数回出現するものがある。図4-4には「火鈴符」に出現するsf010101のパーツに付与された説明文を示している。このように1つの符に複数回出現するものの意味としては、それぞれ「天雷」「地雷」「風雷」「水雷」「火雷」の五雷を意味するもの、方角を表すもの、「天火」「地火」「星火」「日火」「月火」「風火」「水火」雷神を表すもの等がある。1つの符に2回出現するものでは、「日宮太陽帝君」「月府太陰皇君」を意味するものなどがある。意味の分布については、「圓光」の意味は巻200以降に多く出現しており、巻200以前では同じ符にこのパーツが複数回出現するものが多いと言える。

パーツ ID	説明文
115210107	天雷發指卯文
115210108	地雷發指中指中
115210109	風雷發指四指中文
115210110	水雷發指子文
115210111	火雷發指午文
115210112	雷車一轉百鬼腦裂

図4-4 「火鈴符」に出現する sf010101 のパーツ

③sf020402の意味と分布

このパーツは神將の足を表現しており、具象的な図像のパーツでは最も多く出現し、全てのパーツに占める割合は約2%となっている。このパーツは均等に分布しているが、巻100以前に比較的多く分布していると言える。

次にこのパーツが持つ意味について説明する。このパーツは前脚と後脚の2つが組み合わせで出現しているものが多くなっている。意味の面でも2つの足のパーツに付与された意味が対になっているものが多く、「白帝雷公將軍」と「黒帝雷公將軍」や、「前起風雷」と「後脚起風雲」のように、対として意味を捉えるべきものが多いと考えられる。意味としては、「前脚奔雷電」と「後脚起風雲」の「前脚雷電を奔る」「後脚風雲を起す」のように、前脚・後脚でそれぞれ雷電や風雲を起すものが最も多く、その他「後脚火焰滅妖精」のように妖精や魔等を滅ぼすもの、「左青龍捉鬼怪」「右白虎吞鬼精」の「青龍」と「白虎」のように、対となっているもの等がある。示される神將名に関して、巻224-229に「鄧元真」「丁文富」が複数回出現しており、この巻の特徴となっていると考えられる。

4.3.3 複数の要素の組み合わせのパーツ

複数の要素から構成されるパーツは第2章で述べたように複数の文字により構成されるパーツ、複数の図像により構成されるパーツ、複数の文字と図像により構成されるパーツの3つに大きく分類される。分類作業の結果、複数の文字により構成されるパーツには295件、複数の図像により構成されるパーツには13件、複数の文字と図像により構成されるパーツには321件のデータが分類された。この内出現回数順に上位5つのパーツを表4-4に挙げる。この表から分かるように、出現回数の多いパーツは比較的少ない。そのため、それぞれの分類の中で出現回数の多いパーツについて分析を行うと共に、分類の特徴について述べる。また、複数の図像により構成

表 4-4 複数の要素による出現回数

パーツ画像	パーツコード	出現回数
	Pm020132	13
	Pm020145	13
	Pc020107	10
	Pm020118	8
	Pm020134	8

されるパーツについては複数回出現するものがほとんどないため、今回は分析の対象としない。

①pm020132の意味と分類の特徴

複数の文字と図像により構成されるパーツには、1つの文字と1つの図像が組み合わさったパーツの他、「雷令」のような文字列に図像が組み合わさったパーツ等が存在している。この分類では、1つの漢字に1つの図像が組み合わさったパーツが最も多いものとなっており、それらのパーツの場合、使用されている漢字に意味が深く関連していると考えられるものが多い。例えば、「田」に「×」が重なったパーツに付与された説明文が「開天門閉地戸留人門塞鬼路穿鬼心破鬼肚横金梁豎玉柱」であり、もとの「田」のみを使用したパーツの意味と重なることなどの例に、このことが示されている。

次にこの分類で最も多く出現しているpm020132のパーツについて説明する。このパーツは、「勅」と図像の組み合わせにより構成されているパーツとなっている。このパーツは、出現する巻が偏ることなく出現している。次にこのパーツが持つ意味については、付与された説明文には、「吾奉昊天玉皇上帝勅」のように「神(明)＋勅」の意味を持つものが多い。これは、もとの「勅」のみを使用したパーツの意味と類似していると考えられる。

②pc020107の意味と分類の特徴

複数の文字により構成されるパーツには、「鄧嬖」や「張珏」など神将等の名称の文字列、「勅令」「収鬼」などの行動等を指し示す文字列、「火火火」「田田田」などの同じ文字を繰り返している文字列等がある。そのためパーツに使用されている文字列で、神将等の名称の文字列は、その巻に記されている呪術の宗派の分析に役立つと考えられる。「辛漢臣」の文字列により構成されるパーツが巻154に複数回出現、あるいは「馬勝」の文字列により構成されるパーツが巻223-231のみに出現、また「公明(趙公明)」

の文字により構成されるパーツが巻232-236に出現することから、巻154では辛漢臣が、巻223-231では馬勝が、巻232-236では趙公明が、重要な神将であると考えられることができる。

次にこの分類で出現回数の多いpc020107について述べる。このパーツは「三台」という文字列によって構成されているパーツである。このパーツは巻161-162に多く出現している。このパーツの持つ意味については、付与された説明文で類出するものは、「上台一黄祛却不祥中台二白護身鎮宅下台三青治病除精」であり、パーツで使用されている文字列と同じく三台を意味していることが分かる。またその他の説明文も「三台星君」など、三台を意味しているものであり、このパーツの意味も文字によって代表されている。

4.4 関連するパーツの分析

4.4.1 意味の面から見たパーツの関連性

ここでは、パーツに付与された意味の面からの関連性について述べる。異なるパーツに付与された意味の関連として、図45に「三台・三清・三元」を意味するパーツの一部を示している。この図ではパーツ画像の下に、パーツコードとパーツの持つ意味をまとめたものを記述している。「三台・三清・三元」を意味するパーツで図像により構成されるパーツは、三本の線あるいは点により構成されるパーツが多く、このことから、パーツの構成が意味と深い関連にあることが窺える。また、文字により構成されているパーツとしては「三」「山」「魁」等がある。また、複数の文字により構成されるパーツで「上元」「中元」「下元」の文字を使用したパーツや、「三台」の文字を使用したパーツがあり、これらも「三台・三清・三元」を意味するパーツとなっている。

この図にあるように形に関連の無いものであっても、同じ意味を付与されているものがあり、これらについてはパーツの関連性を示すデータを付与することで、関連する意味を持つパーツの検索を可能とした。

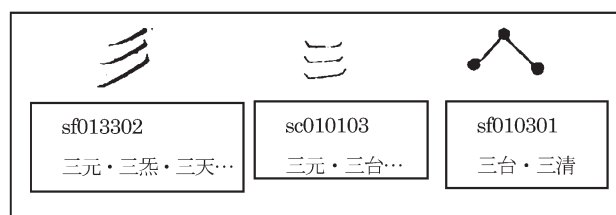


図 4-5 意味の面から見たパーツの関連

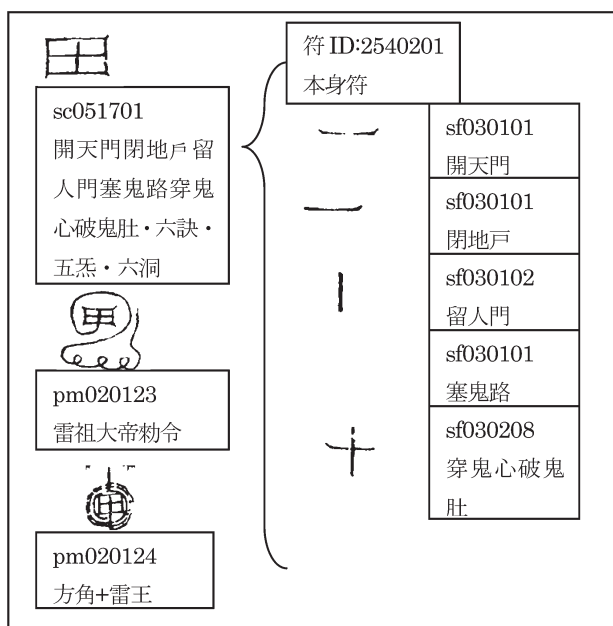
4.4.2 形の面から見たパーツの関連性

次に形の面から見たパーツ間の関連性について述べる。

形の面でのパーツ間の関連としてはまず、漢字が分解されたパーツと元の漢字との間の関連がある。また、複数の要素から構成されるパーツで、「田」の1文字と1つの図像により構成されるパーツも、元の漢字のパーツとの間に関連があると考えられる。図4-6に「田」の字を使用したパーツを示している。この図ではパーツ画像の下にパーツコードとパーツの持つ意味をまとめたものを記述している。但し、「本身符」として囲んである部分のパーツについては、この「本身符」でのパーツの意味を記載している。これは、漢字が分解されたパーツでは元の漢字の意味に依存する所が大きいと、同じ符の中で「田」という漢字に付与された意味が、どのように分解されたかを示すためである。

この図から分かるように「田」の字のパーツの部分から構成されるパーツは、元の漢字である「田」と意味の関連性が強いと言える。また、「田」の形をしたパーツで「鬼」の部分となっているパーツを左下に示している。これは形としては「田」と同じだが、他のパーツと組み合わせることで、聚形符では「鬼」の字を示しているものである。このパーツの意味は「田」の字を使用したパーツ、また「鬼」の字を使用したパーツの両方と共通する部分があると言える。ここで述べたような形での関連があるものについても、そのような情報を付与することで、関連する形を持つパーツの検索を可能としている。

図4-6 形の面から見たパーツの関連



5. 考察

以上で述べてきたように、本研究で『道法會元』に含まれる散形符全ての入力と、パーツコードの分類を行ったことで、今まで考案されてきた分析方法を、『道法會元』全体を研究するためのツールとして活用することが可能となったと考えられる。また、全てのパーツデータの説明文の入力が行われたことで、説明文に使用される文字列の分析など、計量的な分析を行うことも可能となったと考えられる。

また本研究では、パーツの分類について、八十田の行ったパーツコードの付与を見直し、新たにパーツの構成要素の数と構成要素の種類により分類を行った。この分類により、八十田のパーツコードの付与の問題として挙げた、類似した形のパーツに離れたパーツコードが付与されている問題、同じ漢字を使用したパーツに別のパーツコードが付与されている問題などは解決できたと考える。しかし、このパーツの分類方法が適切であったかどうかは、この分類を使用した分析を行っていくことで今後検証していく必要があると考える。

次に、第4章で述べたように頻出するパーツについて、その意味づけ・位置づけとの関連を考慮に入れながら、その分布の特徴・傾向について考察してきた。これらの考察の結果として、パーツに付与された意味や位置には、ある程度巻による偏りがあることがわかった。例えば、「勅」字を使用したパーツでは、「勅」を発する神として、「玄天上帝」は巻130と巻154のみに出現、「神霄真王」は巻193から巻236のみに、「酆都大帝」が巻262から巻264のみに出現している。このことから、「玄天上帝」、「神霄真王」「酆都大帝」はそれぞれその出現する巻に特徴的な神であると考えることが出来る。この「酆都大帝」については、二階堂が特に巻200以降において、天心・地祇・酆都などの諸派の方術が収録されているとしているが[9]、この「酆都大帝」は巻262から264にのみ出現しており、また「酆都」を説明文に含むパーツは25種類あるが、巻115・巻162・巻163・巻226にそれぞれ1回ずつ出現するのを除けば、巻260から巻264に出現しており、この「酆都」に関する呪術系統は巻262から264に中心的に存在しているのではないかと考えられる。このようにパーツの意味については『道法會元』の呪術の宗派とのかかわりが深いと考えられ、今後も研究が必要であると言える。

また、使用されているパーツの種類等についても巻による偏りがみられることから、これらについても呪術の

宗派の分析を行う際に活用できると考えられる。第4章で述べたように、松本の呪術の分類に従って、それぞれのパーツ分類の出現分布を調べると、分類ごとに使用されるパーツの種類に偏りがあることが分かる。また個々のパーツについていえば、図5-1に例を示した7つの円と線とで構成されるパーツは、巻100以降にのみ出現することが分かる。このような出現する巻に偏りのあるパーツの分布についても、呪術の宗派の分析に役立つと考えられる。

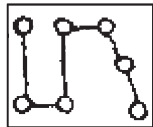


図 5-1 sf010702 の例

また、本研究で行ったパーツ分類の結果については、今後パーツ分析システムへの反映を行っていく必要があると考える。先行研究で作成されたパーツ共起関係分析等にこのパーツ分類の結果を反映させ、『道法會元』自体の研究として分析を行っていく必要があると言える。

また、パーツ間の関連については第3章と第4章で述べたように、意味の面から見たパーツの関連性と形の面から見たパーツの関連性の分析を行い、その結果をパーツ関連性検索として検索を行うシステムの作成を行った。これにより、八十田らや馮の行ってきた共起関係の分析とは異なる関連性の検索が可能となったと言える。

6. おわりに

以上で述べたように、本研究では散形符に含まれるパーツの分類と類出するパーツについてその意味の整理を行ってきた。

本研究で判明した意味の関連のあるパーツについてはパーツ関連性検索として、意味の関連を検索するシステムの作成を行った。本研究で作成したパーツ分類の結果及びパーツの意味の整理については、今後パーツの意味分析や現在馮が行っている符の分析に活用していくことができると考えられる。

7. 参考文献

- [1] 木村文則, 小牟礼雅之, 前田亮, 佐古愛己, 杉橋隆夫. 特集セッション『日本文化デジタル・ヒューマニティーズ』とその展開: 古典史料データベース検索システムの提案. 人文科学とコンピュータ研究会報告. 2008, no.47, p.45-52.
- [2] 増尾伸一郎, 丸山宏. 道教の経典を読む. 東京, 大修館書店, 2001, 280p.
- [3] 林宏美, 宇陀則彦, 松本浩一, 二階堂善弘. 道教資料『道法會元』の電子化実験. 情報知識学会誌. 2001, vol.11, no.4, p.36-45.
- [4] 八十田弓子, 宇陀則彦, 松本浩一, 松本紳. 道法會元における護符分析支援システムの構築. 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集. 2004, p.143-150.
- [5] 宇陀則彦, 為沢ふみ, 松本浩一, 二階堂善弘. 『道法會元』護符における分析支援システムの試作. 情報知識学会第11回研究報告会講演論文集. 2003, p.1-25.
- [6] 馮曉曉. 「道法會元」におけるパーツ関連度の可視化. 図書館情報メディア研究科修士論文. 2007, 45p.
- [7] Henry Dore. Researches into Chinese superstitions Vol. I-III. Taipei, Ch'eng-wen Pub. Co., 1966, 320p.
- [8] 松本浩一. 宋代の道教と民間信仰. 東京, 汲古書院, 2006, p.340-349.
- [9] 二階堂善弘. 道教・民間信仰における元帥神の変容. 吹田, 関西大学出版部, 2006, p.110-146.
- [10] 李遠国. 神霄雷法. 成都, 四川人民出版社, 2003, p.20-119.

(平成22年3月31日受付)

(平成22年7月5日採録)